



臨床栄養管理に関する研究

人間文化学部 健康科学科

准教授 神原 知佐子 (かんばんら ちさこ)

連絡先 県立広島大学 広島キャンパス 1447号室
Tel 082-251-9776 (直通) Fax 082-251-9405 (代表)
E-mail kambara@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 臨床栄養学

キーワード： 臨床栄養, 栄養管理, 栄養療法, 栄養サポート

● 主な取り組み・活動

適切な栄養管理は健康の保持・増進、生活の質(QOL)を高く保つためにとっても重要です。高血圧や糖尿病などに代表される生活習慣病は適切な栄養管理を行うことにより、病気の発症を予防し、さらに発症後の経過が改善することが明らかにされています。また、栄養状態が不良の場合は病気の治癒が遅れ、合併症を併発するリスクが高くなります。しかし、適切な栄養管理により栄養状態の低下を防ぎ、維持・増進することにより、これらのリスクを軽減することができます。

私は、これまで、急性期病院において患者さんの栄養管理や栄養療法に携わってきました。特に、がん(化学療法、放射線療法、外科治療、緩和ケア)と虚血性心疾患の栄養管理や栄養療法に深く関わってきました。

化学療法を受けるがん患者さんは、副作用により、食欲不振、嘔吐、口内炎、味覚障害、下痢などの消化器症状を訴え、食事摂取量が低下し、低栄養に陥るケースが多々みられます。患者さんの訴えを聞きながら、少しでも多く食べられるように化学療法の副作用に対応した病院食を検討しました。副作用には個人差があり、嗜好による差もありますが、概ね好評な食事を提供することができました。

第63回国立病院総合医学会で発表した「がん放射線治療患者の食事に関するQOL向上への取り組み」では、放射線技師と連携し、放射線治療を受ける患者さんの副作用の軽減およびQOL

の向上を目的にパンフレットを作成・活用し、その効果をアンケート調査により検証しました。その結果、同パンフレットの有効性が示され、パンフレットはその後も関係病院で活用されています。

「虚血性心疾患地域連携クリティカルパスを使ったDASH減塩食による栄養食事指導2年間の効果について」(日本病態栄養学会誌, 17-4, 2014)では、アメリカ高血圧学会、日本高血圧学会の標準食事指導とされているDASH

(Dietary Approaches to Stop Hypertension)食の指導について、クリティカルパス(入院診療計画書)に基づいて入院時から退院2年後まで継続的な栄養指導を行い、7つの栄養管理目標の達成度などの推移に注目して指導の効果を考察しました。

● 今後の目標・抱負

これまでの臨床経験を活かし、死亡率が増加傾向にある「がん」「心疾患」、また患者数が多い「高血圧」「糖尿病」「がん」に焦点を当て、生活習慣病の予防および治療効果を高める栄養療法、低栄養状態を予防および改善する栄養療法について、食事や食品の面から研究したいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

地域の医療機関と連携し、食事や食品の治療効果に関する研究、治療食の質の向上に資する研究を進めたいと考えています。大・中規模医療機関に限らず、管理栄養士が常勤しないような小規模医療機関、さまざまな組織や団体、地域の方々と連携し、それぞれの課題解決に寄与できるよう邁進したいと考えています。